

韓国薬学研修報告

鍋倉 智裕

薬学部国際交流委員会

概要

第1回韓国薬学研修を2013年9月8日(日)から9月11日(水)に実施した。6年生1名・5年生2名・4年生2名の5名の学生が参加した。韓国漢陽大学の大学病院と薬学部、調剤薬局、漢方市場などの見学を行い、韓国における薬学・薬剤師や医療に関して学んだ。

参加者

6年 08A801 中村 真未
5年 09A037 三輪 美代子
5年 09A133 水野 靖久
4年 10A072 澤田 真希
4年 09A103 長谷川 博之

今回は4～6年生を対象として募集し、選考の結果、上記女性3名・男性2名の薬学部学生が参加した(図1)。引率として、下記2名の教員が同行した。

薬剤学講座 鍋倉 智裕 教授
衛生薬学講座 李 辰竜 助教



図1 漢陽大学病院にて

日程

2013年9月8日(日)から9月11日(水)までの3泊4日であり、1日目と4日目は移動日、2・3日目に研修を実施した。表1に旅行日程を示した(表1)。2・3日目に実施した研修日程について表2に示した(表2)。

漢陽大学について

漢陽大学は1939年に設立され、ソウルとアンサンの両キャンパスに、工学、医学、経営、芸術など23学部、学部学生約2万5千人、大学院生約1万人が在籍する韓国最大規模の私立大学である。本学と漢陽大学は2013年2月に学術交流協定を締結した。

漢陽大学における薬学教育

日本および米国における薬剤師養成教育6年制の影響を受け、韓国においても2011年度から薬学教育が6年制へ変更されている。漢陽大学では2年間(または4年間)他学部で学習した後、薬学部に進学し4年間学習する、2+4の6年制である。そのため、薬学部では専門科目のみが開講され、3から5年次に生化学、生薬学、薬理学、薬剤学、薬物治療学等を履修し、6年次に合計1300時間の実務実習を病院・薬局や製薬企業で実施する。

薬学部教員は15名(うち実務系が3名)であるが、学部生が3学年合計で90名と少ないため、1教員あたりの学生数は本学よりも少ない。また、薬学部開設に先立って大学院が作られ、64名の大学院生や留学生・博士研究員が在籍し、研究施設が充実している。韓国における薬学教育は日本とは異なる点もあり、参考となると考えられる。

感想

今回は5名と少数の学生の参加のためか、どの学生も意欲的・積極的に行動していた。韓国の学生は日本文化に興味がある学生も多く、好意的・積極的に接してもらえた。双方の母国語ではない英語で懸命に意思の疎通に努める姿は大変誇らしく思えた。有意義な体験であり今後の学習に活かせるものと期待している。今後もこのような機会をより多くの学生に提供し、愛知学院大学薬学部の発展に寄与していきたい。

今回の学生の旅行費用について補助を頂き、愛知学院大学薬学会の皆様へ深く感謝いたします。

表 1 旅行日程

日次	月日(曜)	都市	交通手段	現地時間	スケジュール 【宿泊先】
1	2013年 9月8日(日)	中部国際空港発 ソウル着	OZ121	11:50 13:50	中部国際空港からアジアナ空港にて韓国へ 【ホテルスカイパーク明洞2】
2	9月9日(月)	ソウル	公共交通機関	終日	研修 【ホテルスカイパーク明洞2】
3	9月10日(火)	ソウル	公共交通機関	終日	研修 【ホテルスカイパーク明洞2】
4	9月11日(水)	ソウル発 中部国際空港着	OZ124	15:00 16:50	ソウルからアジアナ航空にて日本へ

表 2 研修日程

9月9日(月)	
09:30 - 11:00	漢陽大学大学病院、病院薬剤部見学 (イ ジュヨン教授引率)
12:00 - 14:00	ソウル漢方市場見学
14:30 - 16:00	韓国伝統文化体験 (仁寺洞)
9月10日(火)	
10:00 - 10:30	漢陽大学薬学部歓迎式 (学部長等参加)
10:30 - 12:00	授業参観 (イム ヒョンシン教授、4年生薬物学、韓国語)
12:00 - 13:00	昼食
13:00 - 14:00	調剤薬局訪問 (チェ キョンシク教授引率)
14:00 - 16:00	薬学部棟見学
16:00 - 17:00	授業参観 (チェ キョンシク教授、大学院講義、臨床薬学、英語)
17:30 - 20:00	夕食 (漢陽大学学部生参加)